

各務原市新庁舎建設実施設計

【概要版】

平成31年3月

各務原市

日本設計・大建設設計・Meet's 設計工房設計共同企業体

【 目次 】

1. 新庁舎のコンセプト	・・・p. 0 1
2. 計画概要	・・・p. 0 2
3. 配置計画	・・・p. 0 3
4. 平面計画	・・・p. 0 4
5. 外装計画	・・・p. 0 8
6. 立面計画	・・・p. 0 9
7. 防災計画	・・・p. 1 0
8. 構造計画	・・・p. 1 1
9. 環境配慮計画	・・・p. 1 2
1 0. ユニバーサルデザイン計画	・・・p. 1 3
1 1. 設備計画	・・・p. 1 4
1 2. ランドスケープ計画	・・・p. 1 5
1 3. 事業計画	・・・p. 1 6

1. 新庁舎のコンセプト

新庁舎の基本理念及び基本方針（各務原市新庁舎建設基本計画）

「市民の安全・安心な暮らしを支え みんなにやさしい庁舎」

① 防災拠点の機能が果たせる庁舎

耐震性の確保／災害対策本部機能の整備／バックアップ機能の整備

② 誰もが利用しやすい庁舎

窓口機能の整備／相談機能の整備／駐車場・駐輪場の整備／移動しやすい空間の整備
利用しやすい設備の整備／分かりやすい案内の整備

③ 市民に親しまれる庁舎

交流機能の整備／情報発信機能の整備／議会施設の整備

④ 経済性に配慮した環境にやさしい庁舎

省エネルギーへの対応／ライフサイクルコスト低減への対応

⑤ 機能的・効率的な庁舎

執務空間の整備／会議室等の整備／セキュリティ機能の整備

設計に反映

設計の考え方

「ものづくり」の活力と「おもてなし」の心で「まち」をつなぎ、市民の誇りになる新庁舎

1 市民の安全・安心を支える堅牢さと、瞬時に災害対策拠点へ機能転換できる備えを併せ持つ庁舎

・災害対策の中核となる高層棟は免震構造を採用し、自家発電設備等の設備を備えてインフラ途絶時も庁舎機能を維持し、継続的な災害対応が可能な庁舎とします。

2 全ての来庁者にとってわかりやすく見通しの良い単純明快な施設構成

・市民の利用頻度が高い窓口を1、2階に集約し、全体が視認しやすい施設構成、分かりやすいサイン、ゆとりのある通路幅等、ユニバーサルデザインに配慮した計画とします。

3 けやき通りと那加メインロードに面した「おもてなし」の顔づくり

・メイン通りに面して低層部に「かかみのフォーラム（仮称）」を整備し、内部の様子がよく見え、親しみやすい庁舎の顔をつくります。けやき通りに面した低層棟には市民ギャラリー併設カフェスペースを設け、にぎわいを創出します。

4 各務原市の自然を大いに活かした「各務原型環境建築」の実現

・省エネルギー技術の導入と様々な環境負荷低減手法の採用により、一次エネルギー消費量を一般庁舎と比べて約51%の削減を目標とします。

5 柔軟性・効率性・快適性を併せ持つ市民サービスや議会運営の要となる執務空間

・執務ゾーンの形状を整形でひとつながりのオープンフロアとすることで将来的な組織改編に対してもフレキシブルに対応できる庁舎とします。



2. 計画概要

敷地概要

- 所在地：岐阜県各務原市那加桜町1丁目69番地
- 敷地面積：12,467.56㎡
- 地域地区：商業地域
準防火地域
- 指定容積率：400%
- 指定建ぺい率：80%
- 前面道路：東側 幅員 5.90～ 5.92 m 市道 那 713 号線
南側 幅員 16.23～17.59 m 市道 那 816 号線（那加メインロード（旧中山道））
西側 幅員 11.60～16.02 m 市道 那 643 号線（けやき通り）
（上記幅員は当該敷地の接道範囲内の最小～最大幅員を示す。）
- 高さ制限：航空法の制限 ※新庁舎（高層棟）計画範囲内で約 27 m～31 mの制限有

建物概要

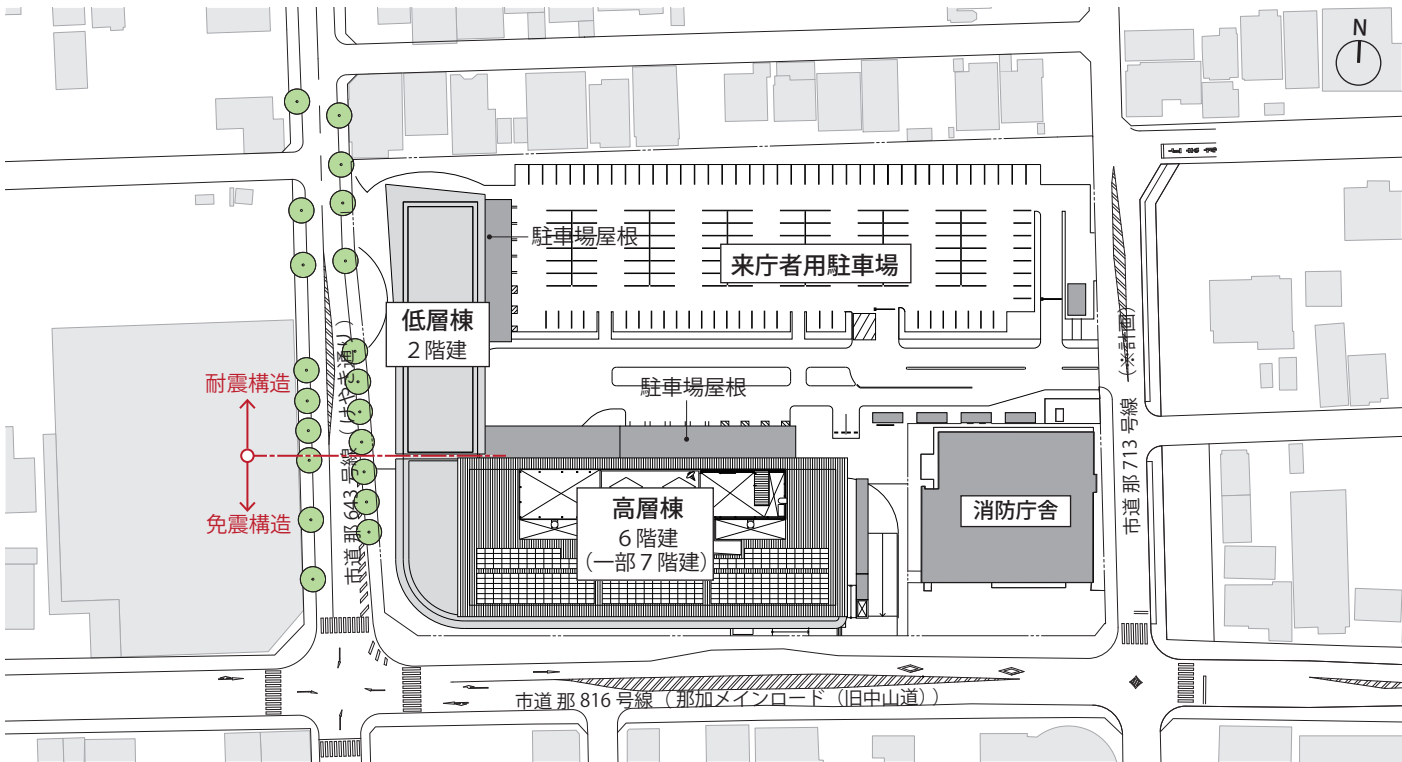
- 延べ面積：16,802.69㎡
- 容積対象面積：13,897.03㎡ ※地下駐車場／屋根付駐車場及び駐輪場／昇降路／自家発電機室を除く
- 容積率：111.47%
- 建築面積：4,195.53㎡
- 建ぺい率：33.66%
- 階数：地下1階 地上7階 ※7階は機械室等
- 構造：高層棟：鉄筋コンクリート造（免震構造） 低層棟：鉄骨造（耐震構造）
- 建物高さ：高層棟：29.375 m 低層棟：9.575 m
- 駐車台数：来庁者用：162 台（含む、障がい者等用駐車場7台／おもいやり駐車場8台）
：公用車用： 60 台（高層棟地下）
- 駐輪台数：80 台
- 面積表

階	高層棟	低層棟	付属建屋	延べ面積
7階	32.04㎡	—	—	32.04㎡
6階	1,848.44㎡	—	—	1,848.44㎡
5階	1,823.80㎡	—	—	1,823.80㎡
4階	1,848.87㎡	—	—	1,848.87㎡
3階	1,915.91㎡	—	—	1,915.91㎡
2階	2,380.74㎡	443.64㎡	—	2,824.38㎡
1階	2,582.67㎡	674.73㎡	568.68㎡	3,826.08㎡
地下1階	2,683.17㎡	—	—	2,683.17㎡
計	15,115.64㎡	1,118.37㎡	568.68㎡	16,802.69㎡

※付属建屋：屋根付き駐車場及び駐輪場、ゴミ置場等



計画地案内図



概略配置図

3. 配置計画

■施設配置計画

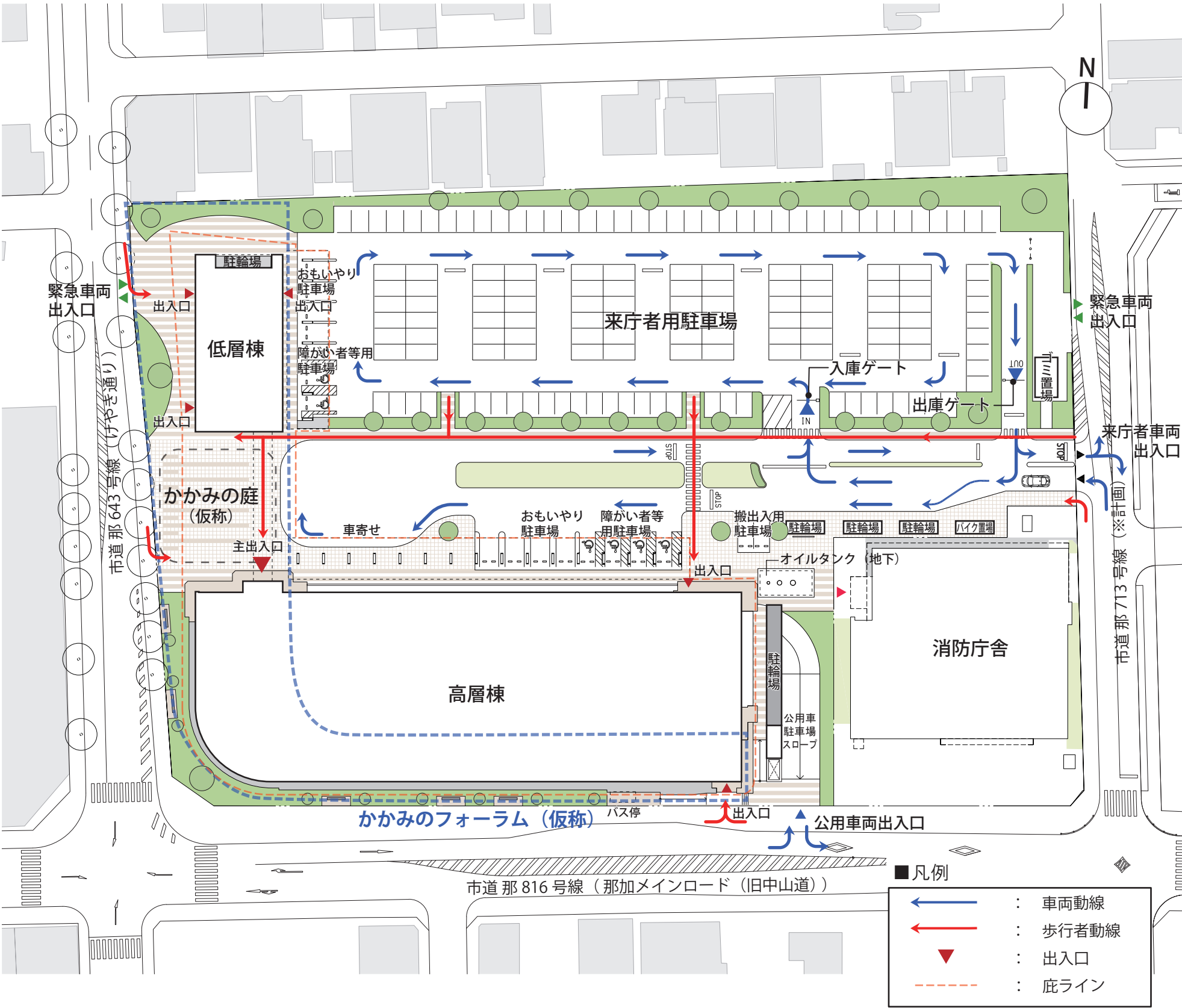
- ・那加メインロード(旧中山道)に沿って高層棟(6階建て一部7階)を配置し、既存庁舎を使いながら建替えができる配置計画とします。また、けやき通り沿いに低層棟(2階建て)を配置します。
- ・那加メインロード(旧中山道)とけやき通りに面したスペースを「かかみのフォーラム(仮称)」とします。「かかみのフォーラム(仮称)」には、窓口の待合スペースや市政情報コーナー、低層棟の市民ギャラリー併設カフェスペースなどを配置することで、通りに面したにぎわいの広場(フォーラム)になることを目指します。
- ・通りに面して圧迫感を抑えるために、高層棟の壁面は3階以上をセットバックし、低層棟は2階建てで構成します。
- ・けやき通りに面した「かかみのフォーラム(仮称)」の一部に「かかみの庭(仮称)」を計画します。庁舎の表玄関として高層棟の主出入口を配置し、オープンカフェやイベント等で利用できる屋根付きの外部空間として市民の憩いの場となるような仕掛けづくりを行います。
- ・建物を南側と西側に集約配置することで、駐車場を敷地の北側に確保します。
- ・駐輪場は高層棟東側、低層棟北側、消防庁舎北側に配置し、敷地内に分散させることで、どこから庁舎を訪れても停めやすい計画とします。

■歩行者動線計画

- ・歩行者は敷地に面した3方の道路からそれぞれアプローチできる計画とします。歩行者と車両の動線はできる限り分離し、安全な動線計画とします。
- ・「かかみの庭(仮称)」や車寄せ、障がい者等用駐車場とおもいやり駐車場から出入口までは雨や雪に濡れずに施設へアクセスできる屋根を設けます。
- ・高層棟には北西の主出入口のほか、北東、南側の合計3ヶ所に出入口を設け、どこからでも入りやすい計画とします。
- ・低層棟には「かかみの庭(仮称)」、けやき通り、駐車場からの出入口を設けます。

■車両動線計画

- ・来庁者車両は東側道路からのアプローチとし、那加メインロードとけやき通りの渋滞緩和に配慮します。
- ・来庁者用駐車場は時計回りを主とした明快な構成とします。
- ・障がい者等用駐車場とおもいやり駐車場は、庁舎出入口に近く、屋根付きとします。
- ・公用車駐車場は高層棟の地下に計画し、那加メインロードからのアクセスとすることで来庁者の一般車両動線と交錯しないように計画します。公用車の出入りは左折とし、渋滞への影響がないように配慮します。
- ・東側と西側に緊急車両の出入口を計画します。



■配置計画図

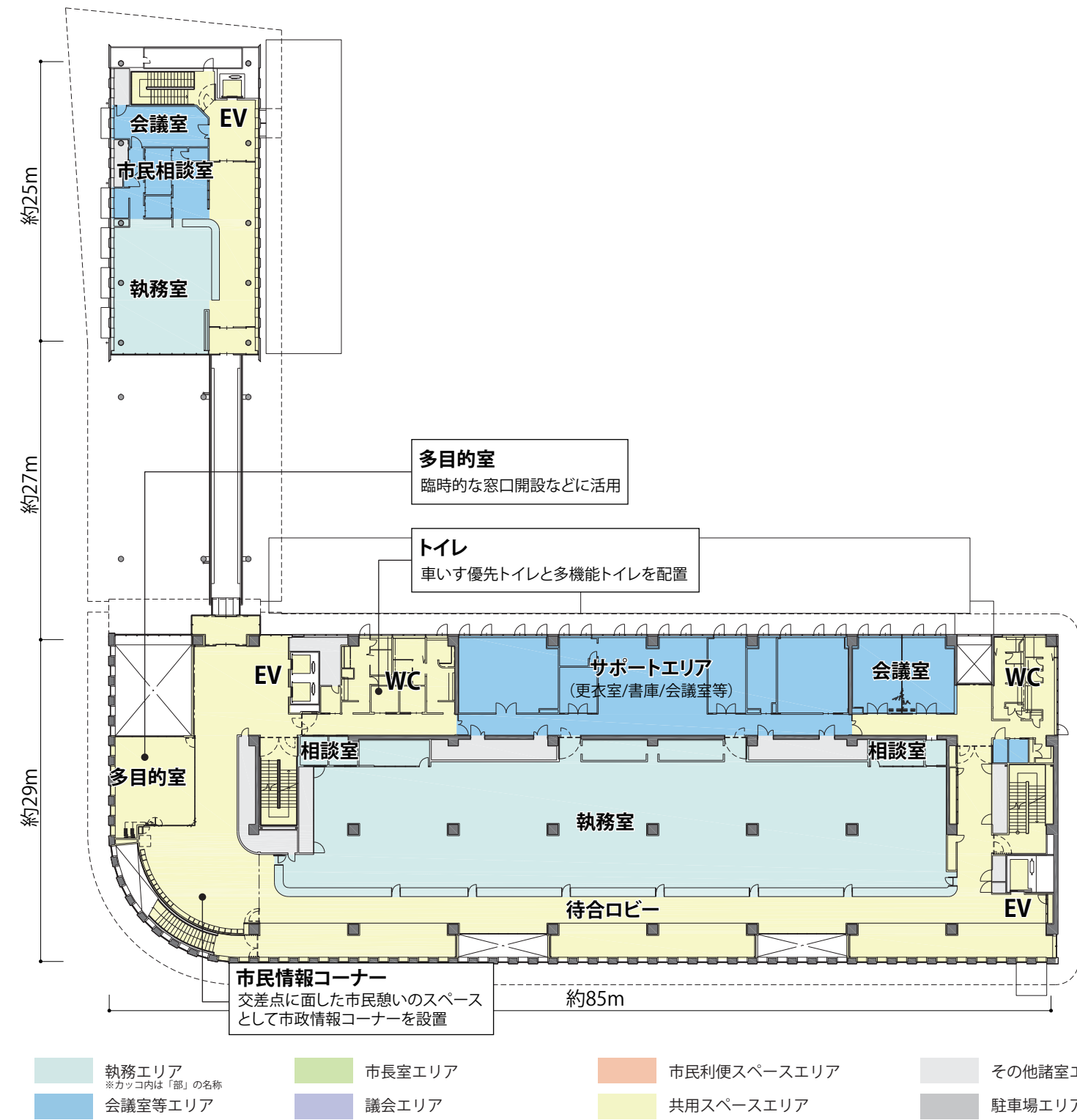
■ 1 階平面図

-
- かかみのフォーラム (仮称)**
- 通りに面し、窓口の待合スペースや市政情報コーナー、低層棟の市民ギャラリー併設カフェスペースなどを配置することで、にぎわいの広場(フォーラム)として計画
- かかみの庭 (仮称)**
- 庁舎の表玄関として高層棟の主出入口を配置し、オープンカフェやイベント等で利用できる屋根付きの外部空間
- エントランスホール**
- 来庁者の案内を行う総合案内を設置
1、2階の専用階段を設け窓口を訪れた来庁者の動線に配慮
- ATMコーナー**
- けやき通り、駐車場からのアクセスが良く立ち寄りやすい位置に計画
- 市民ギャラリー併設カフェスペース**
- けやき通りに面して景観が良く、南面を開放し、かかみの庭 (仮称) との一体利用も可能な計画
- エレベーター**
- 東西に設置し、来庁者動線に配慮した移動しやすい計画
- トイレ**
- 車いす優先トイレと多機能トイレを配置
- 執務室**
- ユニバーサルレイアウト、OAフロアを採用し組織の変更に柔軟に対応できる計画
- サポートエリア**
- 更衣室、書庫、会議室等、自由な間仕切設定を可能にすることで、合理的で機能的な空間
- 中央管理室**
- (休日時間外窓口)
- 待合ロビー**
- 窓口カウンターは直線で視認性の良い待合空間
ミーティングゾーンやキッズスペースも配置
- オイルタンク (地下)**
- 約25m
- 約27m
- 約29m
- 約85m
- 執務エリア**
※カッコ内は「部」の名称
- 市長室エリア**
- 市民利便スペースエリア**
- その他諸室エリア**
- 会議室等エリア**
- 議会エリア**
- 共用スペースエリア**
- 駐車場エリア**
- 0 5 15 30

4. 平面計画

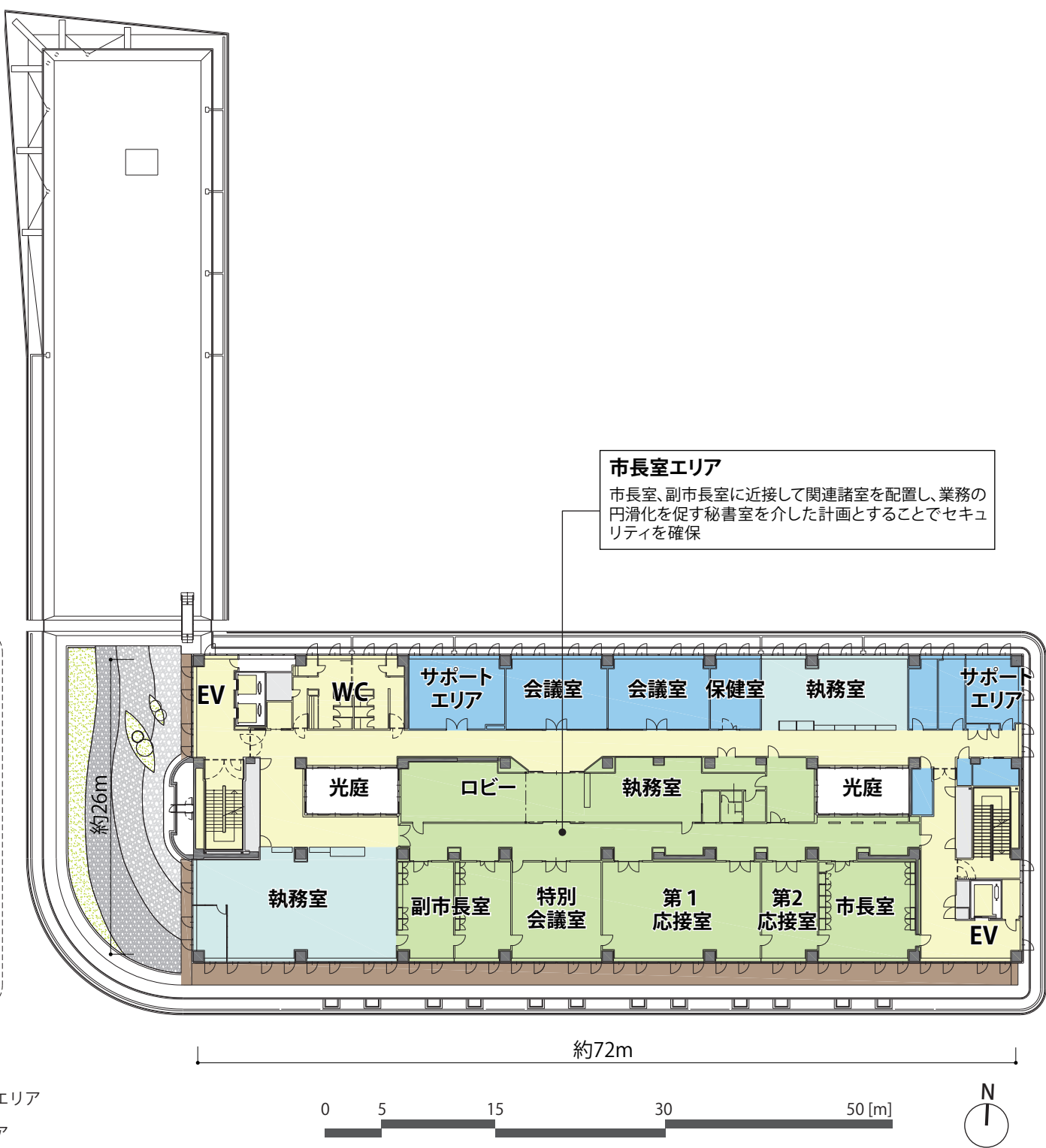
■ 2階平面図

- ・執務室は1階と同様にオープンプラとし、カウンターの見通しが良い構成とします。
- ・西側の共用スペースに多目的室を配置し、時期による臨時的な窓口の開設などが可能な計画とします。
- ・高層棟と低層棟は連絡通路（外部廊下）で接続し、来庁者の利便性に配慮します。



■ 3階平面図

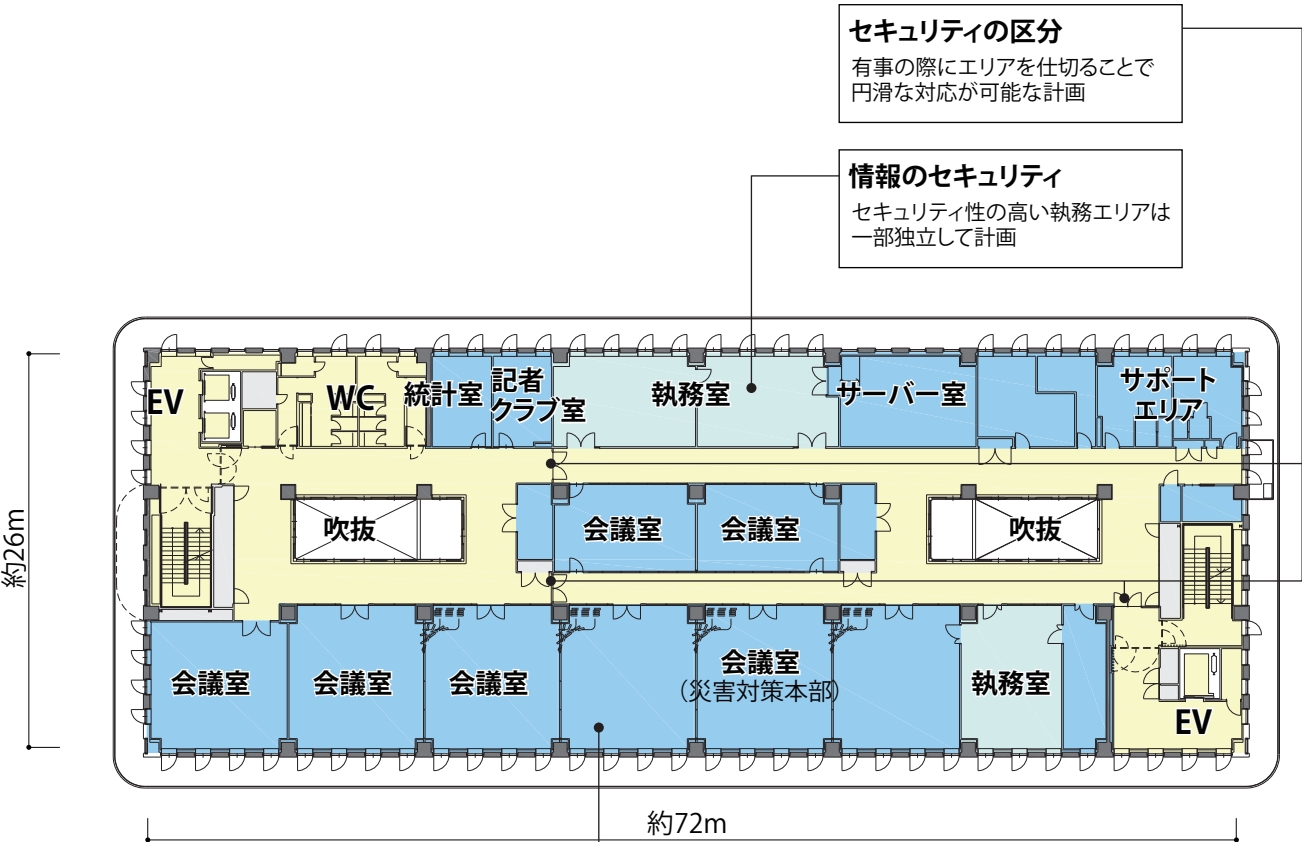
- ・市長室や行政執務機能を南側に配置します。
- ・更衣室、書庫、会議室等のサポートエリアを北側に配置します。



4. 平面計画

4 階平面図

- ・危機管理部門、情報管理部門、共用会議室を配置します。
- ・災害対策本部は共用会議室を転用し、事態の推移により拡張可能とすることで災害時にも円滑な対応ができる計画とします。

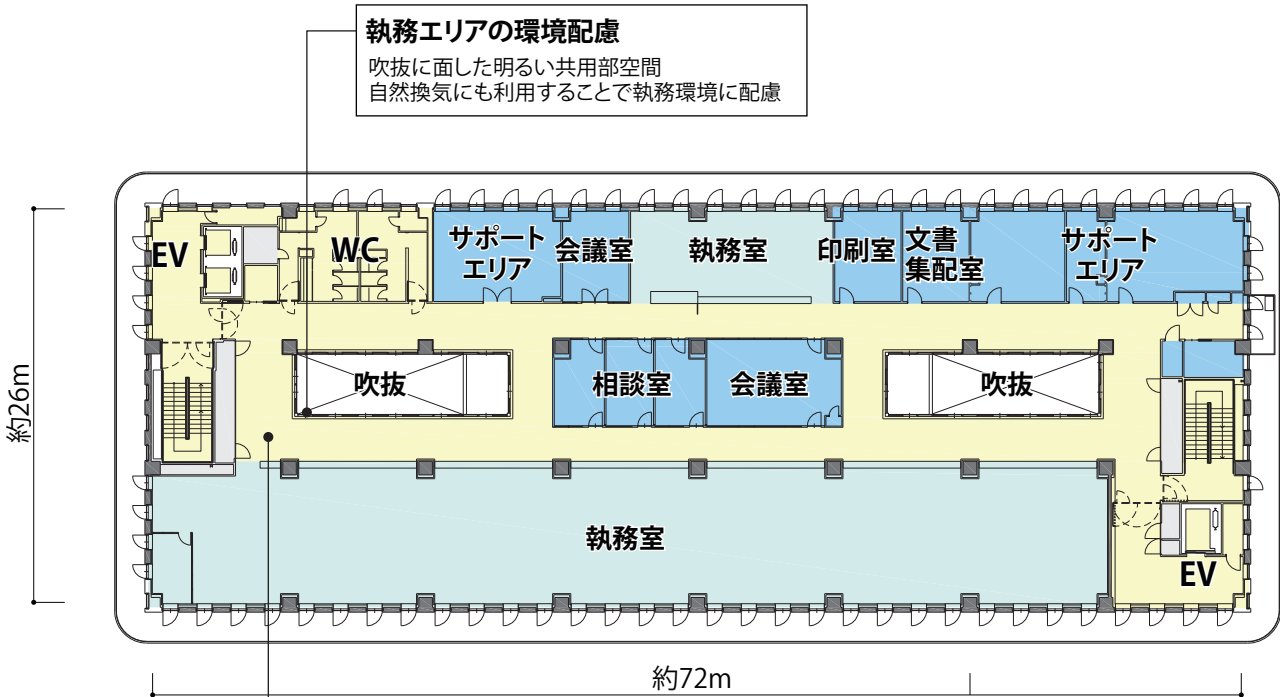


■災害対策本部のイメージ

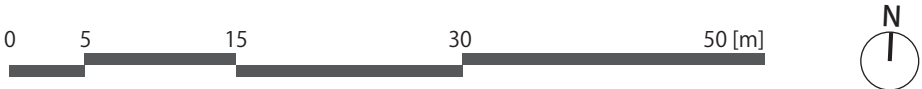


5 階平面図

- ・南側に行政執務機能を配置します。
- ・更衣室、書庫、会議室等のサポートエリアを北側に配置します。



■執務エリアの内観イメージ

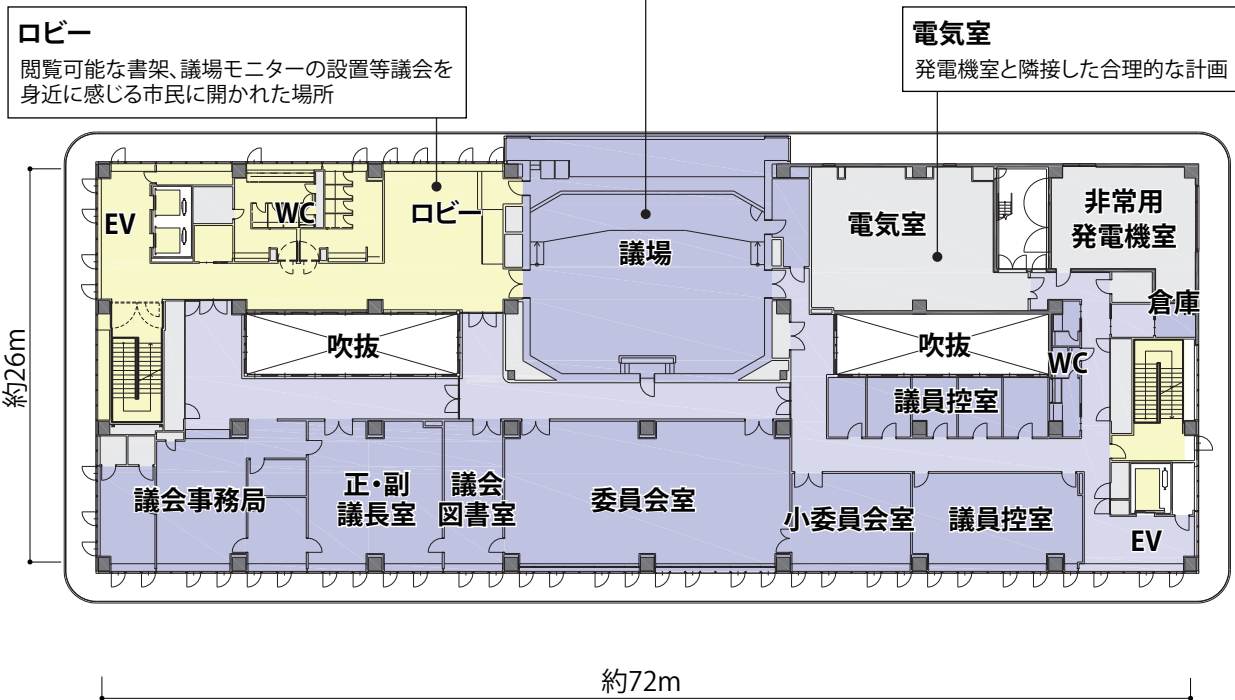


4. 平面計画

■ 6階平面図

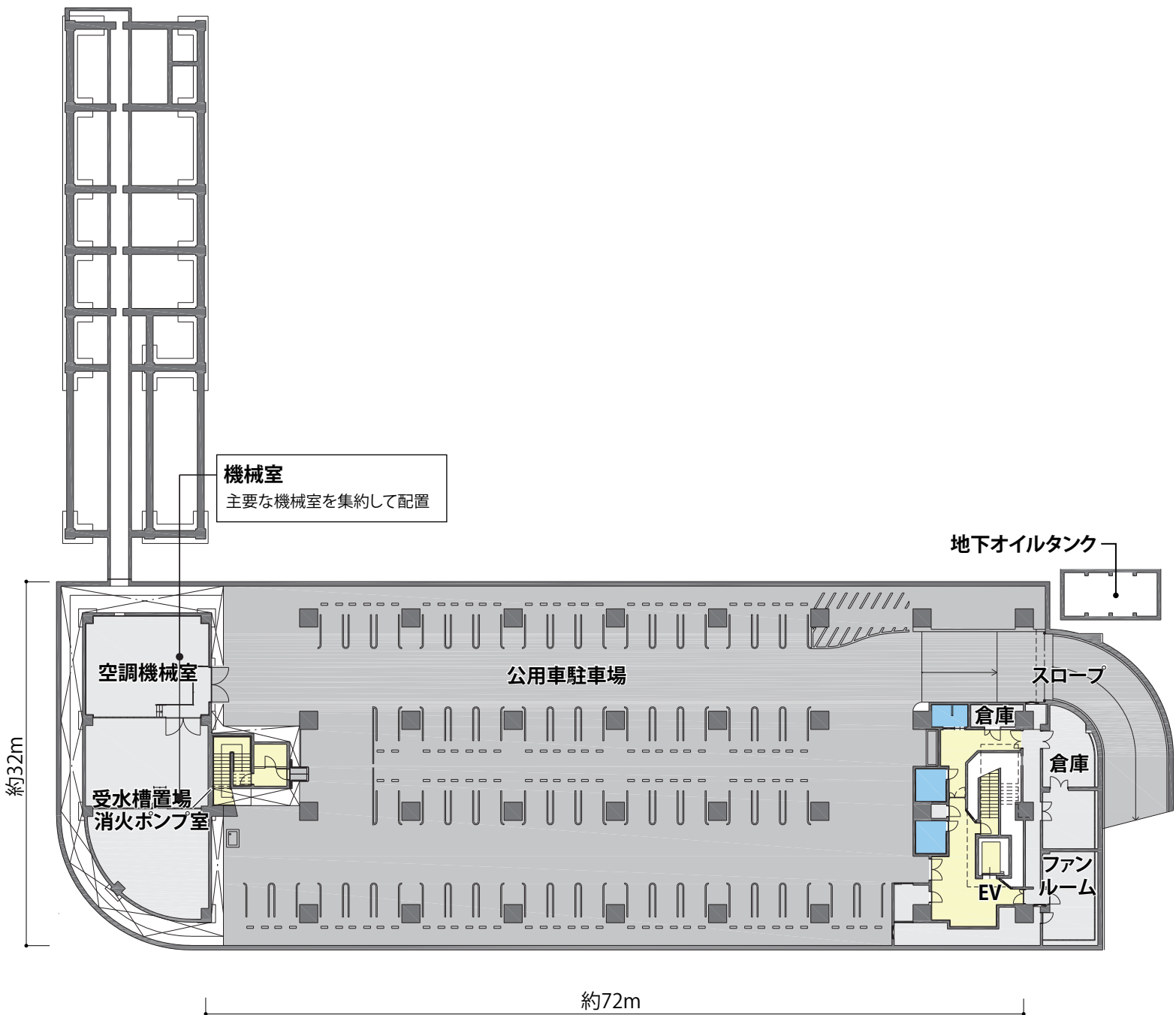
- ・議場、議会運営に必要な諸室を集約して効率的でコンパクトな配置とします。
- ・傍聴席はバリアフリーとし、難聴の方が声を聴きやすくなる磁気ループ※1を設置するなどユニバーサルデザインの議場を計画します。
- ・議場ロビーは市民に開かれた場所とし、議会を市民が身近に感じられる計画とします。

※1 ループアンテナを輪のように這わせ、音声磁場をつくるシステム

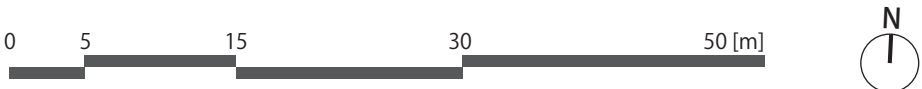


■ 地階平面図

- ・免震構造に伴う地下空間を有効利用し、約 60 台分の公用車駐車場とします。
- ・公用車駐車場は那加メインロードからスロープでアプローチします。



執務エリア	市長室エリア	市民利便スペースエリア	その他諸室エリア
会議室等エリア	議会エリア	共用スペースエリア	駐車場エリア



5. 外装計画

■各務原市の「顔」として3つの各務原らしさを表現した外観イメージとします。

① おもてなしの顔づくり

旧中山道の宿場町の風景を受け継ぐ格子

とおりへ



- ・コンクリートに木質系の色調の塗装をした壁部分とガラスの組み合わせにより、宿場町の街並みを構成する連子格子のような外装デザインとします。
- ・開口部は防音サッシ及び防音ガラスを採用し、壁面とのバランスに配慮しながら高い防音性能（防衛省の1級防音工事）とします。
- ・1階は固定の防音ガラスにより大きなガラス面で構成し、外から中がよく見えるようにします。
- ・耐久性、経済性、メンテナンス性に配慮した外装とします。

② 航空宇宙産業の活発な都市としての顔づくり

飛行機の翼のように大らかな屋根と庇

まちへ



- ・遠景からの新庁舎のシルエットを特徴づけるために、高層棟の最上部に緩やかに湾曲した飛行機の翼のような大きな屋根をかけます。
- ・各階に直射日光を遮り、メンテナンスバルコニーを兼ねた庇を計画します。
- ・低層部は通りに面して水平方向に伸びやかに広がる庇を設置します。

③ 新庁舎を訪れる市民の表玄関としての顔づくり

にぎわいを創出する「かかみのフォーラム（仮称）」の「かかみの庭（仮称）」

ひとへ



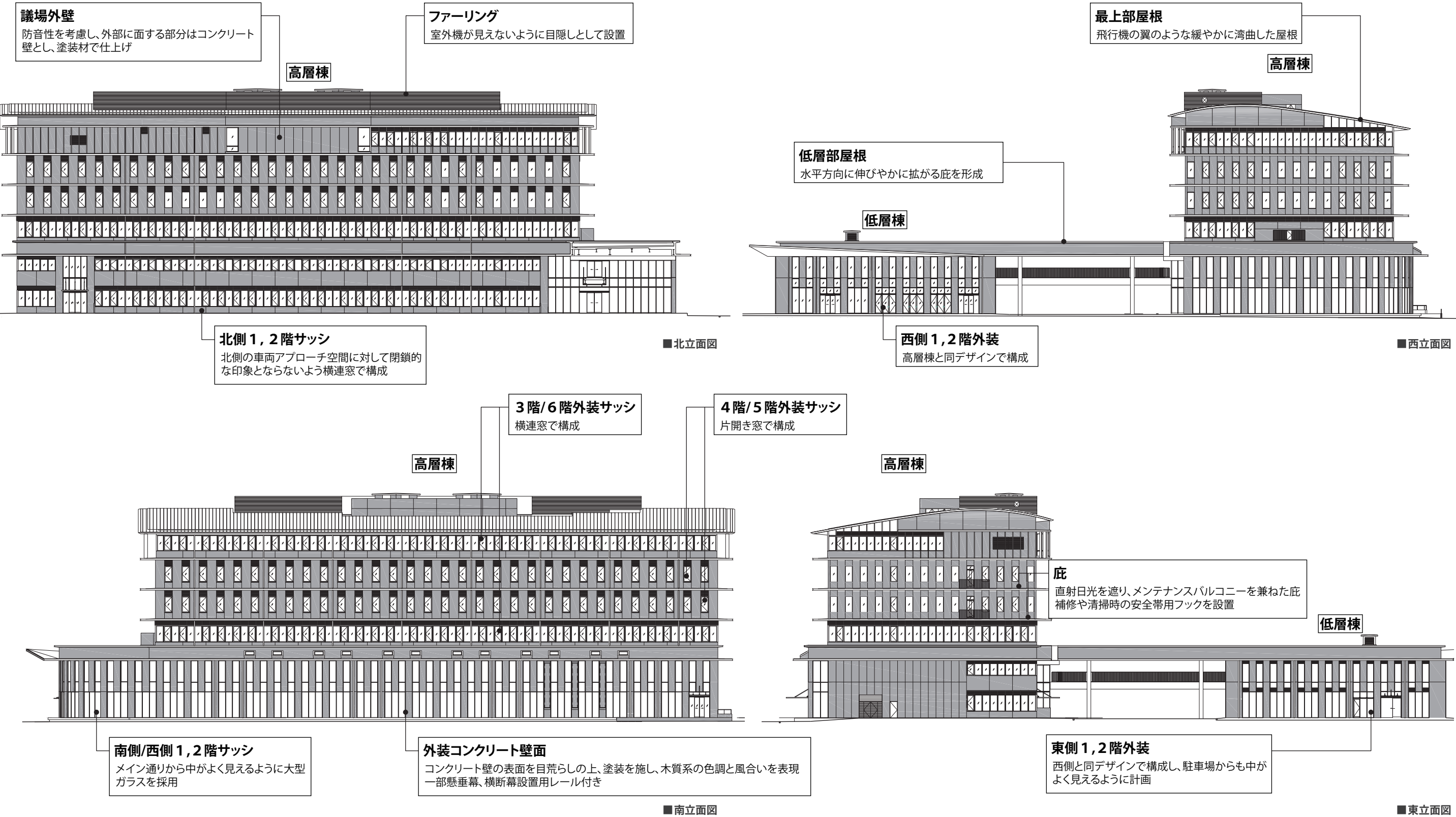
- ・通りに面した「かかみのフォーラム（仮称）」により、にぎわいの顔をつくり出します。
- ・「かかみのフォーラム（仮称）」に計画する「かかみの庭（仮称）」は、市民のイベントスペースとしても活用可能な計画とし、屋根がかかった半屋外空間とします。
- ・「かかみの庭（仮称）」は、けやき通りの並木と呼応したランドスケープを形成し、庁舎と一体的につながった空間とします。



6. 立面計画

■立面図

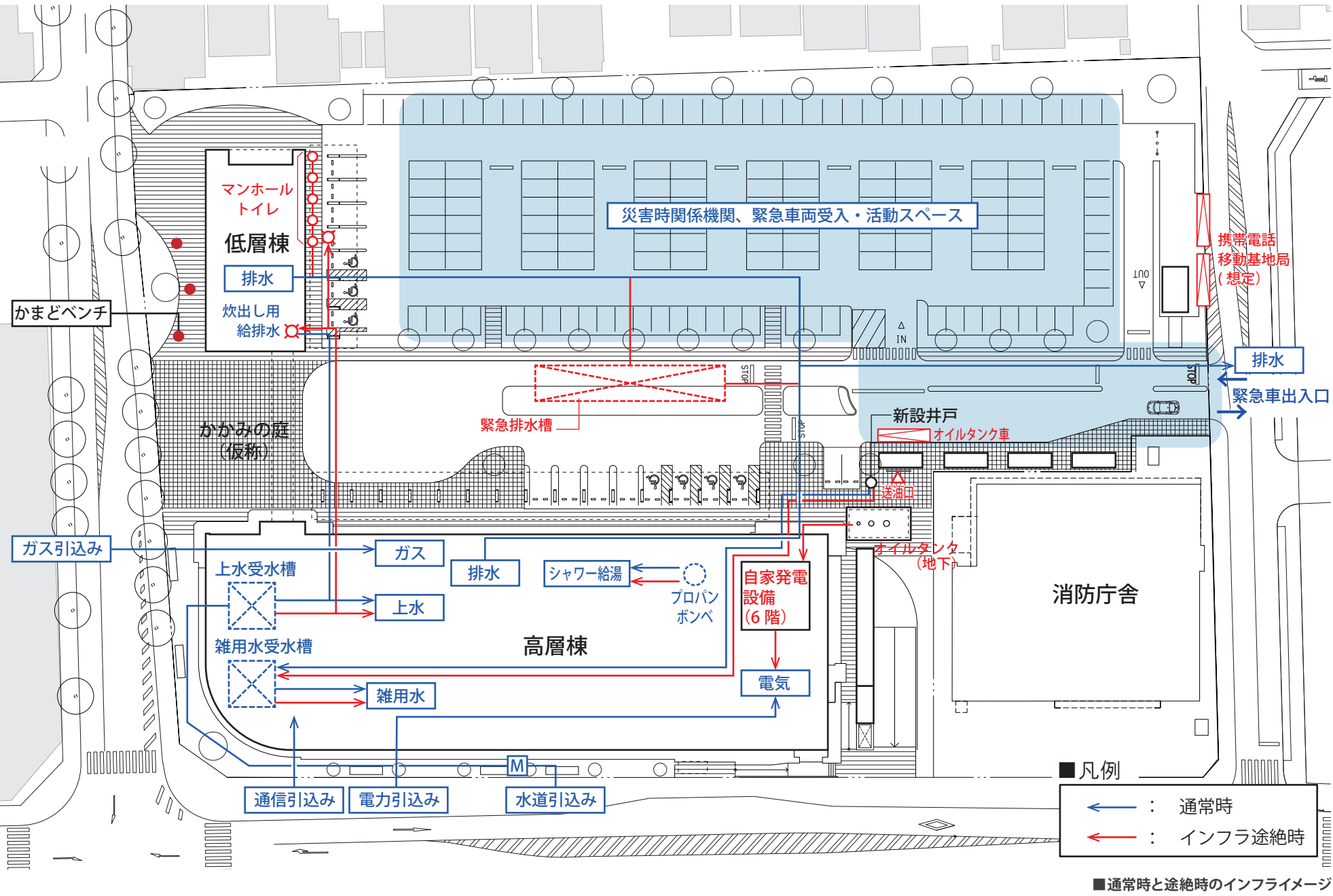
- ・防音性能とメイン通りから中がよく見える構成を両立した計画とします。
- ・直射日光を遮り、メンテナンスバルコニーを兼ねた庇を設けます。



7. 防災計画

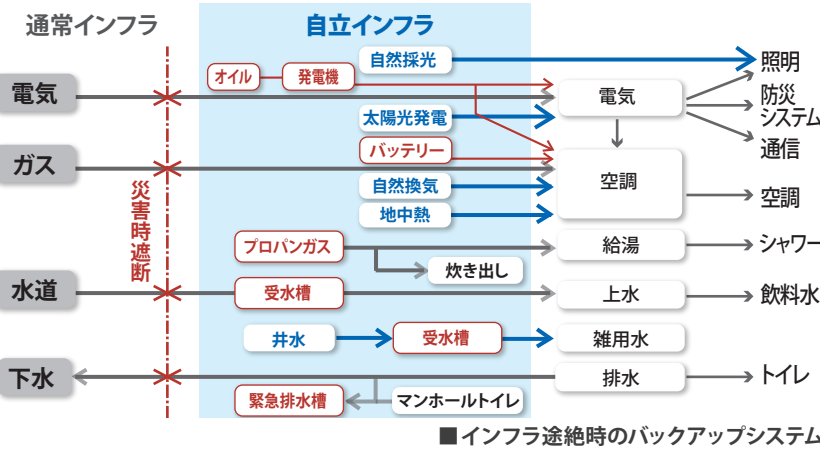
■災害対策拠点の中核機能としての万全な備え

- ・災害対策本部をはじめとし、庁舎の諸室および外構スペースを災害対策拠点機能として転用するとともに、インフラ途絶時にも災害対策拠点の機能を維持できる自立型庁舎とします。
- ・高層棟は、災害時に災害対策活動拠点としての機能を発揮し、継続して庁舎機能を維持できるよう免震構造とします。
- ・災害対策本部は、高層棟4階に集約した共用会議室を転用し、事態の推移により機能を拡張することで迅速な復旧・復興対応を可能とします。



■インフラ途絶時のバックアップについて

- ・ライフラインの多重化と自然エネルギーを活用した自立インフラによってインフラ途絶に対する万全の備えを構築します。



- 【電気】自家発電設備の設置（7日間：168時間分）
 - ・災害対策本部などの災害対策拠点機能を維持できるよう、自家発電設備機能を備えます。

- 【上水・雑用水】水源の確保
 - ・災害時の飲用水を供給できる容量を受水槽で貯水します。
 - ・雑用水の水源に井水を利用し、災害時のトイレ洗浄水の水源を確保します。

- 【下水】マンホールトイレの設置
 - ・緊急排水槽を設け、マンホールトイレを設置できる桟と埋設配管を低層棟の底下に設置します。
- 

- 【ガス】プロパンガスの活用
 - ・災害時のシャワーや炊き出し燃料としてプロパンガスを活用します。

- 【通信】非常時の通信手段の確保
 - ・携帯電話事業者の移動基地局のための電源供給設備と駐車スペースを確保します。

■その他

- 来庁者用駐車場の活用
 - ・来庁者用駐車場は関係機関や緊急車両の受入・活動スペースに対応するために車止めなどの障害物がない計画とします。

- かまどベンチの設置
 - ・非常時に炊き出し等の対応ができるかまどベンチを設置します。
- 

8. 構造計画

■構造計画

○基本方針

- ・新庁舎は建て替え手順および経済性を考慮し、高層棟と低層棟の2棟で計画します。
- ・高層棟は「免震構造」（耐震安全性の目標：Ⅰ類相当）とし、災害時に災害対策活動拠点としての機能を発揮し、継続して庁舎機能が維持できるようにします。
- ・低層棟は「耐震構造」（耐震安全性の目標：Ⅱ類）とします。

○構造計画概要

- ・高層棟（図1）
 - 構造形式：免震構造（地下1階柱頭での中間階免震）
 - 構造種別：鉄筋コンクリート造（一部プレストレストコンクリート造）
 - 架構形式：耐震壁付ラーメン構造
 - 基礎形式：直接基礎（地盤改良）

- ・低層棟（図1）
 - 構造形式：耐震構造
 - 構造種別：鉄骨造
 - 架構形式：純ラーメン構造
 - 基礎形式：直接基礎（地盤改良）

○液状化対策

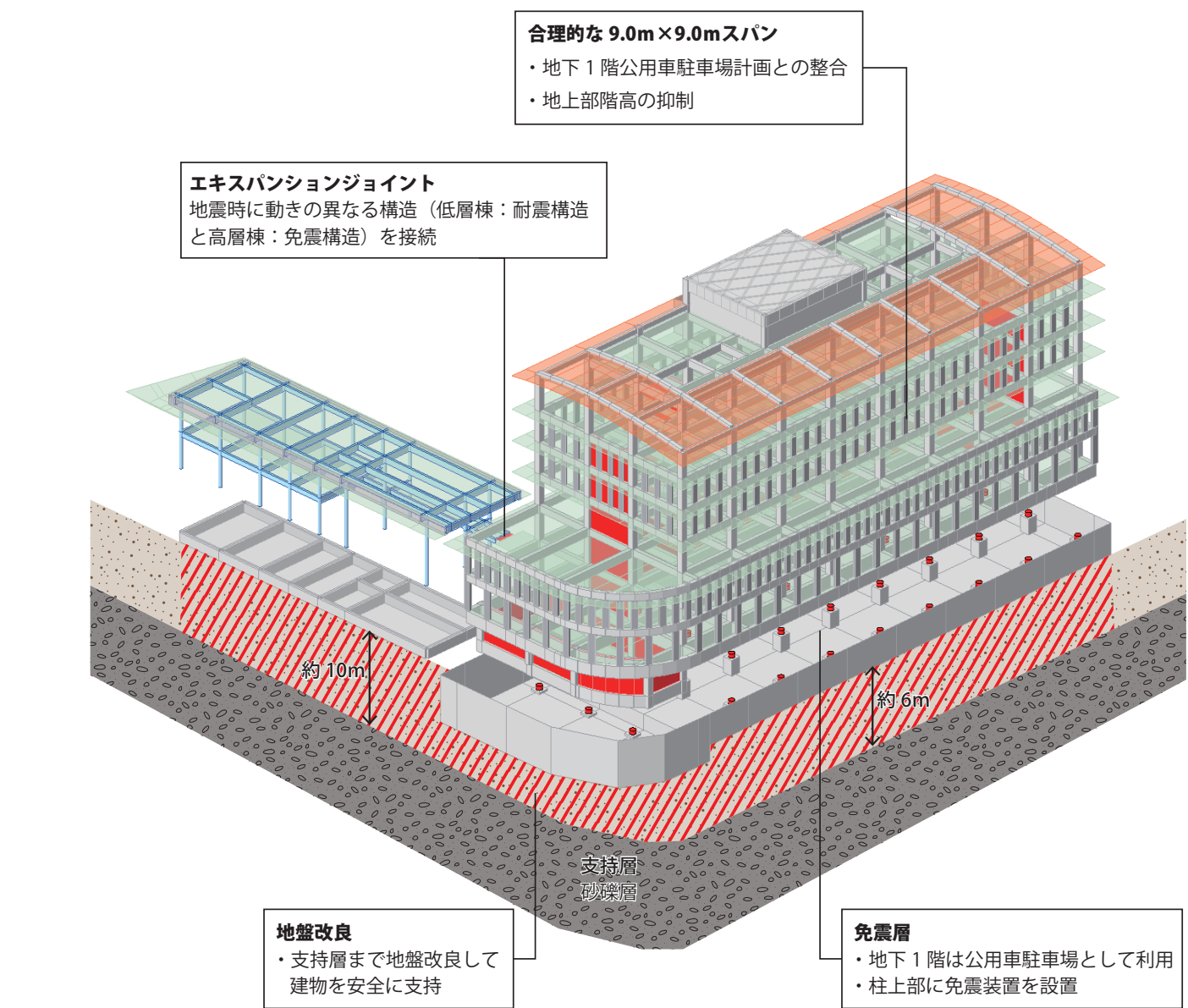
- ・地質調査の結果から、地震時に支持層（GL-12.0m）から上の地盤に液状化が生じる可能性があるため、基礎底（高層棟 GL-6.0m，低層棟 GL-2.0m）から支持層までの地盤を改良して、建物を安全に支持します。（図1）

○免震装置

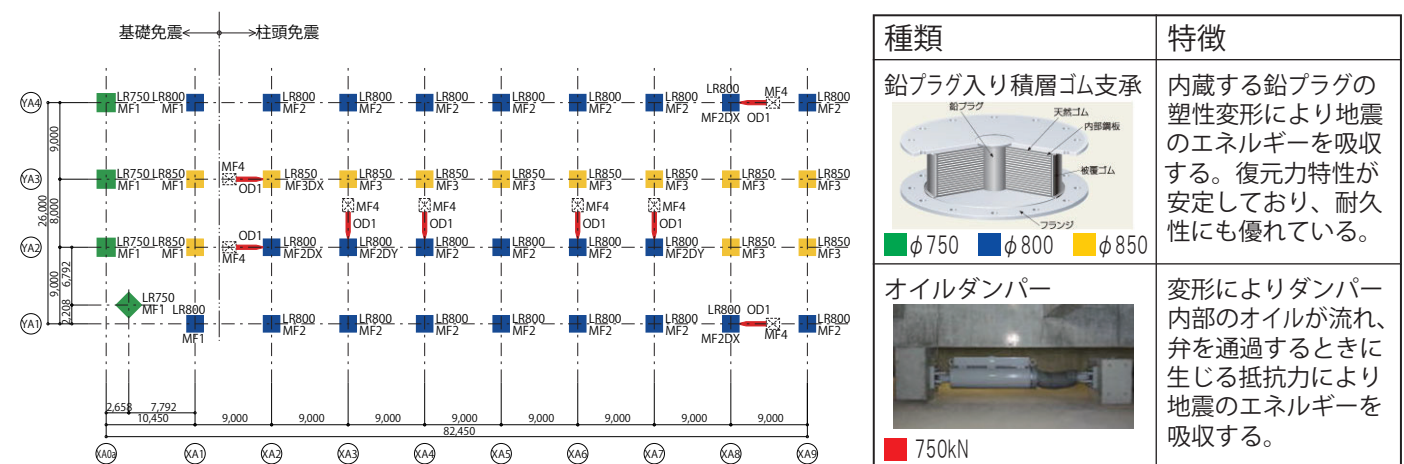
- ・鉛プラグ入り積層ゴム支承を平面的にバランスよく配置します。また、減衰性能を高め、地震時における免震層の変形を抑えるために、オイルダンパーを設置します。（図2、図3）

○耐震性能

- ・建築基準法で定められた「稀に発生する地震動」（震度5弱程度）、「極めて稀に発生する地震動」（震度6強程度）に加えて、新庁舎への影響が大きいと想定される「南海トラフ地震」「養老－桑名－四日市断層帯地震」（震度6弱程度）に対して、構造体に損傷が生じないことはもちろん、設備配管の破損、天井の落下、家具や什器の転倒を生じないようにすることで、市庁舎としての機能維持が図られ継続利用が可能となります。



■図1



■図2

■図3

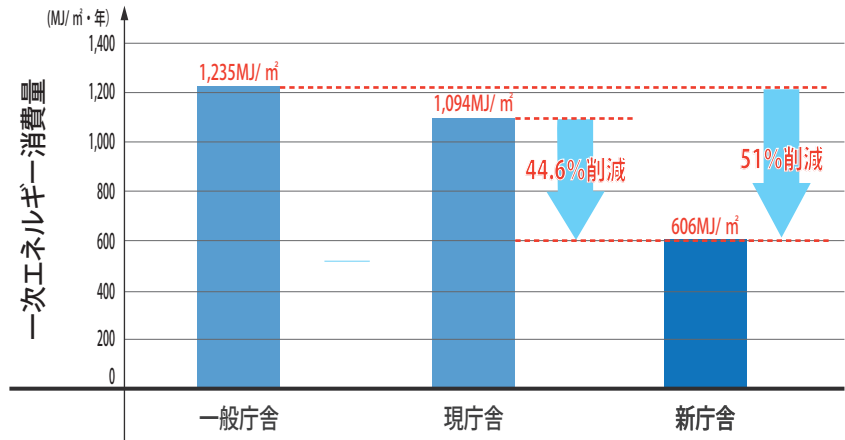
9. 環境配慮計画

■一次エネルギー消費量を一般庁舎より 50%以上削減

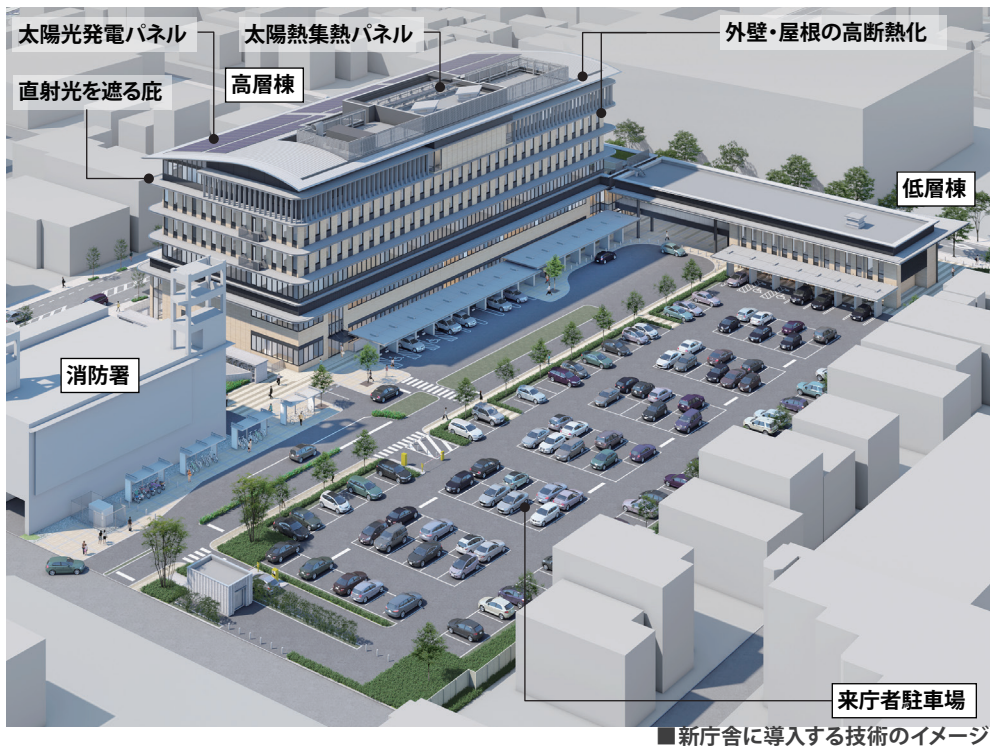
・様々な環境負荷低減手法、省エネルギー技術の採用により、一次エネルギー消費量^{※1}を一般庁舎^{※2}と比べ 50%以上の削減を目標とした庁舎（ZEBready）を目指します。

※1 建築や住宅で用いる冷暖房をはじめ、換気、給気、照明などの設備基礎のエネルギーを熱量換算した合計の値。

※2 (財)省エネルギーセンターで消費エネルギー分析した2009年時点の庁舎



※試算条件：一般庁舎の一次エネルギー消費量をベースに中間期の空調設備負荷有として想定（コンセント負荷は消費削減率効果から除く）
■ZEBready庁舎を目指した計画



■環境負荷低減手法

○採光に配慮した配置・日射特性に対応した庇

・南北採光を主とした配置と、四周庇により日射負荷を軽減します。

○外壁・屋根の高断熱化

・高性能ガラスや断熱材により、夏期・冬期の空調負荷を軽減します。

○中庭による自然採光・通風

・太陽光採光装置による自然採光の確保、煙突効果による通風の確保により照明負荷、空調負荷を削減します。

■省エネルギー技術

○放射床冷暖房

・1、2 階の窓口空間の空調は床からの放射熱空調で冬季の底冷え防止と夏期の冷房効率向上を図ります。冷房には井水熱を利用します。

○デシカント空調システム^{※3}

・低層棟のピットを活用したクール＆ヒートトレンチで外気を導入し、井水熱やコ・ジェネ排熱、太陽熱を使った調湿制御で快適なクールビズ空調を行います。

※3 温度と湿度を別々に制御でき、湿度を効率的に処理できる空調機

○高効率機器・インバーター機器

・高効率の空調機器や LED 照明器具の採用と省エネ制御により消費エネルギーを低減します。

○照明制御システム

・明るさセンサーや人感センサー、タスク＆アンビエント照明^{※4}等の採用により、照明エネルギーを低減します。

※4 照らすべき対象物（タスク）を照らす照明と、天井や壁、床などの周辺（アンビエント）を照らす照明の両方を組み合わせた照明方式

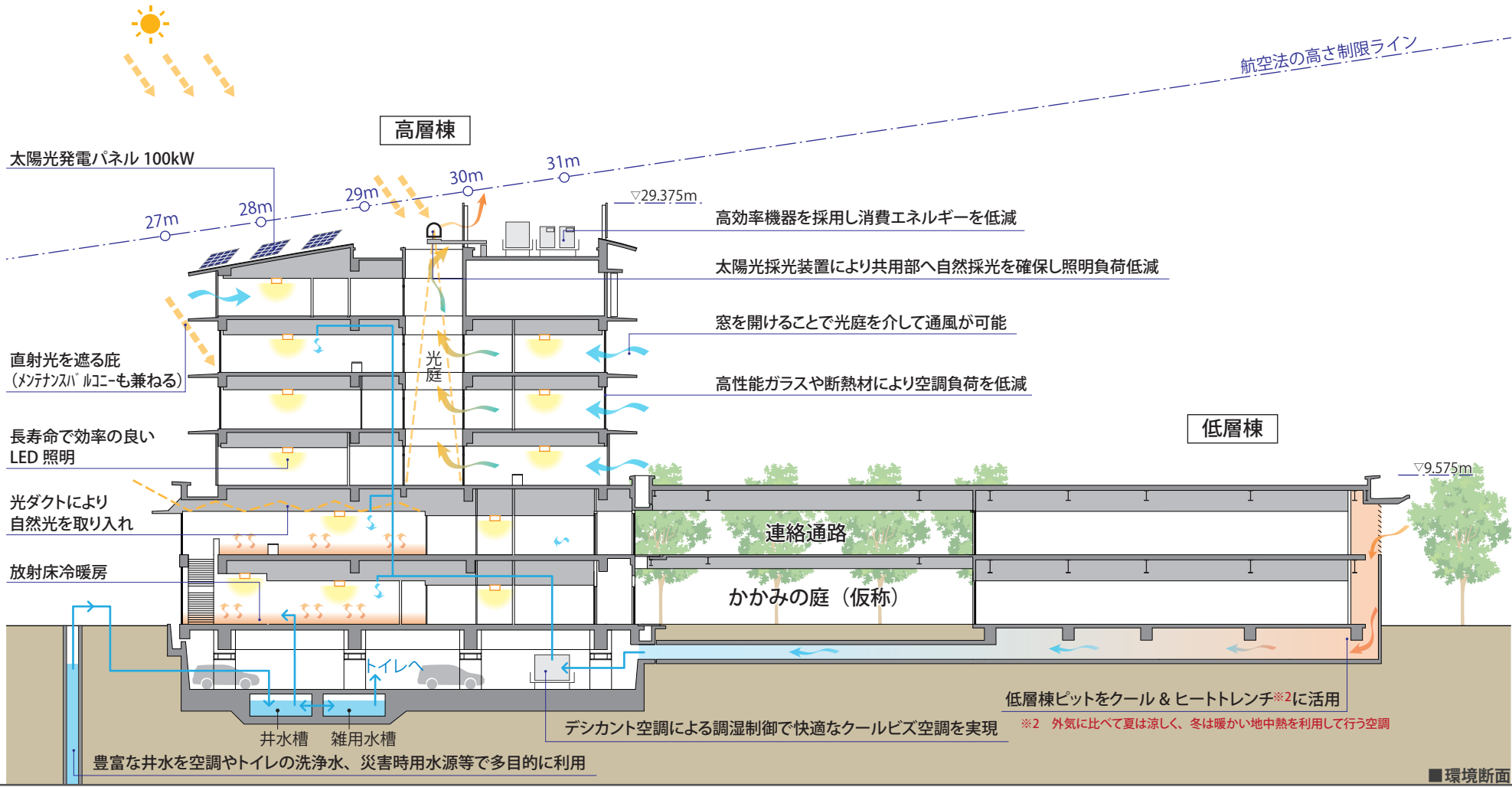
■再生可能エネルギー

○太陽光エネルギー利用

・100kW の太陽光発電パネルにより、新庁舎全体のエネルギー消費量を大幅に削減します。

○井戸水の多目的利用

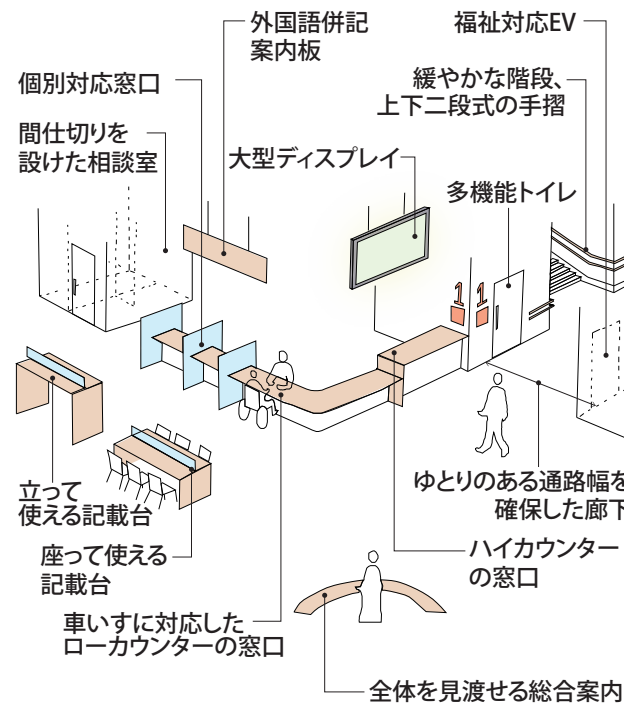
・井戸水を日常の雑用水利用だけでなく、冷暖房用の熱源水や災害時水源など多目的に利用します。



10.ユニバーサルデザイン計画

■全ての人に分かりやすく使いやすい施設計画

- ・誰もが利用しやすく快適な庁舎とするため、きめ細やかなユニバーサルデザインの実現を目指します。



■分かりやすく使いやすいユニバーサルデザインのイメージ



■1階窓口空間のイメージパース

■窓口空間

○総合案内

- ・主出入口や待合ロビーからの見通しがよい位置に総合案内カウンターを設置します。

○窓口カウンター

- ・プライバシーに配慮した仕切り板付のカウンターとし、直線的で見通しの良い計画とします。

○キッズスペースと授乳室

- ・高層棟1階窓口カウンターに併設してキッズスペースを設けます。また、1階に授乳室を設置します。

■各単位空間

○庁舎出入口

- ・庁舎出入口から総合案内カウンターまで、視覚障がい者用誘導ブロックを敷設します。

○階段

- ・階段の幅は150cm以上、踏面30cm以上、蹴上16cmで段差が分かりやすい計画とします。

○エレベーター

- ・高層棟には、乗用：15名×2基、人荷用：26名（1,750kg）×1基、低層棟には、乗用：13名（900kg）×1基を設置し、いずれも福祉対応仕様※1とします。

※1 車いすに乗ったまま操作できる操作ボタン、点字や音声アナウンスで目の不自由な方でも安全に利用できる機能などを備えた仕様

○トイレ

- ・フロアごとの利用者層を考慮し、多様な要求に対応できるトイレ計画とします。
- ・多機能トイレを1階に2カ所、2階～6階は各1カ所設置し、西側は各階同じ場所に計画します。
- ・車いす優先トイレを1階と2階に各1カ所計画します。

○廊下

- ・主要な廊下は車いす利用者と余裕ですれちがえる180cm以上の幅を確保し、出入口には段差を設けない計画とします。

■サイン

- ・誰にでも読みやすく統一されたデザインとし、色彩や誘導表示等を用いて分かりやすさを徹底します。
- ・多くの来庁者のニーズに応えるため、点字や音声案内の設置、外国語を併記したサインを設置します。

■その他

- ・障がい者等用／おもいやり駐車場には、雨や雪に濡れずに庁舎へアクセスできるように屋根を設置します。



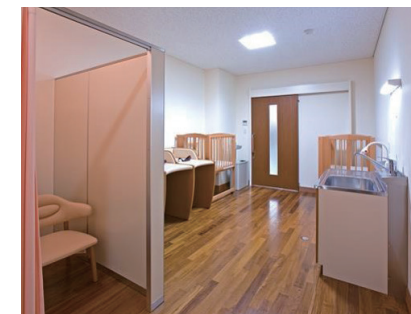
■総合案内カウンターの例



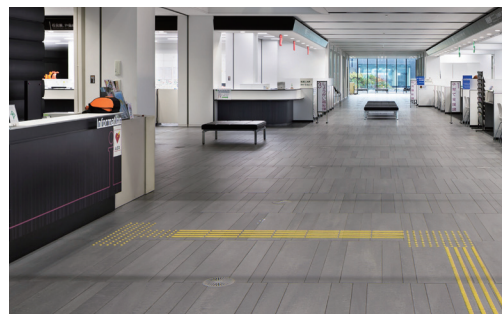
■大きな文字と分かりやすい内容のサインの例



■プライバシーを守るカウンターとキッズスペースを併設した例



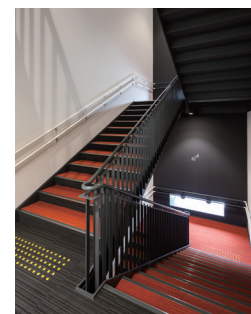
■授乳室の例



■総合案内へつながる誘導ブロックの例



■多機能トイレの例



■両側手摺階段の例



■車いすに対応した記載台の例



■障がい者等用／おもいやり駐車場の例

1 1. 設備計画

■電気設備概要		■空気設備概要	
受変電設備	受電方式：6.6kV 1 回線受電 屋内型キュービクル	熱源設備	井水熱利用ヒートポンプ＋太陽熱・コジェネ排熱利用
	一般電灯：900kVA		ビル用マルチエアコン（EHP・GHP）
	一般動力：800kVA	空調設備	除湿型（デシカント）外調機＋床放射空調
	非常保安電灯：100kVA		全熱交換ユニット＋ビルマル用室内機
	非常保安動力：300kVA	換気設備	除湿型空調機による第一種換気方式（1・2 階執務室）
非常用発電機設備	ガスタービン発電機 625kVA		調湿型外気処理機による第一種換気方式（主要執務室）
	燃料：軽油		全熱交換器による第一種換気方式（その他空調対象室）
	稼働時間：168 時間		排気ファンによる第三種換気方式（トイレ・倉庫等）
	（1 週間連続運転可能）	排煙設備	自然排煙
太陽光発電設備	多結晶シリコン太陽電池 100kW、	中央監視	PC 型中央監視装置 +BEMS-PC
	パワーコンディショナー 100kW		
幹線動力設備	動力 三相 3 線 200V		
	電灯 単相 3 線 200V/100V		
照明設備	LED 照明器具		
	人感センサーおよび昼光制御センサー制御		
雷保護設備	棟上導体方式（引下げ導体は構造体を利用）新 JIS レベルⅣ		
自動火災報知設備	GR 型受信機		
その他設備	構内交換設備、構内情報通信網設備、情報表示設備、		
	映像音響設備、拡声設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、		
	監視カメラ設備、入退室管理設備、駐車場管制設備		
		■給排水設備概要	
		上水給水設備	SUS 製受水槽＋加圧給水ポンプユニット
		雑用水給水設備	躯体利用水槽＋加圧給水ポンプユニット
		給湯設備	ガス給湯器（LP ガス利用）、貯湯式電気温水器
		排水設備	屋内分流（汚水、雑排水、ドレン系、雨水系）方式
		衛生器具設備	節水型衛生器具
		消火設備	屋内消火栓設備、連結送水管設備、不活性ガス消火設備、
			泡消火設備、消火器

■ 各務原市の歴史性・自然特性を具現化した3つのスペースの展開

1. かかみのフォーラム（仮称）：現庁舎より移植するシダレザクラや低木類で構成した緑地帯

●北側との境界際：目隠しフェンス＋灌木帯に加え、直接的に北側建物が見えないように高木類を適宜配置

●駐車場：一般的なアスファルト舗装仕様

来庁者用駐車場

●「かかみのランウェイ（仮称）」の並木：駐車場の車止めと縁石を兼ね緑地帯をと高木並木を形成

低層棟

屋根付駐車場

ゴミ置場

かかみの庭（仮称）

車寄せ

屋根付駐車場

屋根付駐輪場

屋根付駐輪場

屋根付駐輪場

屋根付バイク置場

高層棟

屋根付駐輪場

●消防署との隣地境界際：車路と消防署の間は歩行空間としないため緑化

●「かかみのフォーラム（仮称）」の緑化景観：中木類、低木類による緑化景観を形成。舗装部分の材質はインターロッキングブロック

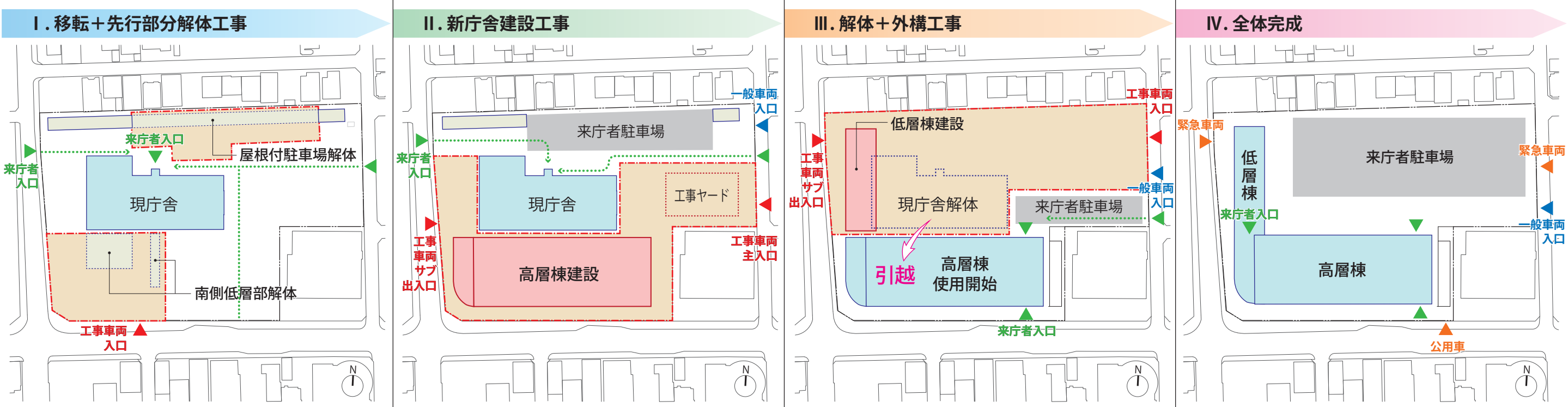
●シンボルツリー：交差点に面して高木類を配置

- かかみのランウェイ（仮称）の両サイドに、高木類を植栽し、並木を形成することで、駐車場と新庁舎を豊かな緑でつなげます。

1 3. 事業計画

■建替計画

- ・現庁舎の南側低層部を先行解体し、新庁舎高層棟を建設します。
- ・高層棟完成後に現庁舎を解体し、低層棟を建設します。



■工程計画（予定）

- ・現庁舎低層部分の先行解体は平成 30 年度末に完了し、高層棟の建設を平成 31 年 8 月から開始し、平成 33 年 7 月中旬頃完成を予定しています。
- ・高層棟の完成後に現庁舎から移転し、その後現庁舎の解体で約 8 ヶ月、低層棟の建設で約 8.5 ヶ月の工期を予定しています。
- ・すべての工事が完了する時期は平成 34 年 11 月下旬頃を予定しています。

想定年月	H31 年(2019 年)												H32 年(2020 年)												H33 年(2021 年)												H34 年(2022 年)											
	H30 年度			H31 年度									H32 年度												H33 年度												H34 年度											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
設計・発注準備等																																																
移転+先行部分解体工事																																																
高層棟+低層棟建設工事																																																
解体工事																																																
外構工事																																																

■建設事業費

約 8 3. 1 億円

- ・建設工事費（ZEB、電話設備を含む）、解体工事費、屋外施設工事費、植栽工事費、予備費の合計で、消費税（10%）を含みます。